

2026 年 7 月 30 日

一般財団法人東京マラソン財団
東京建物株式会社
(協力) 株式会社ヘラルボニー

東京マラソン財団×東京建物×ヘラルボニーによる 東京レガシーハーフマラソン 2026「東京 cheer back ビブス」 アクション始動

スポーツとアートの融合で多様性あふれる社会の実現へ

一般財団法人東京マラソン財団（本社：東京都新宿区、理事長 早野 忠昭、以下「東京マラソン財団」）、東京建物株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員 小澤 克人、以下「東京建物」）、株式会社ヘラルボニー（本社：岩手県盛岡市、代表取締役 Co-CEO 松田 崇弥、松田 文登）は、2026 年 10 月 18 日に開催予定の「東京レガシーハーフマラソン 2026」（以下「本大会」）において、東京マラソン財団が推進するアートプロジェクトの一環として、ランナーが着用する背面ビブスを活用した「東京 cheer back（チアバック）ビブス」アクション（以下「本アクション」）を実施することをお知らせします。



本大会は、MUFG スタジアム（国立競技場）をスタート・フィニッシュ地点とし、大都市・東京を舞台に、国内で行われるハーフマラソンでは最多の 18,000 名のランナーが参加するスポーツイベントであり、2022 年に第 1 回大会が開催され本大会で 5 回目の開催となります。一般、障がい者、障がい者（車いす）、準エリート、エリート、パラアスリート、学生チームと多様なエントリーにより、様々なランナーに東京のまちを走る楽しさを提供します。

本アクションでは、障害のイメージ変容と福祉を起点に新たな文化の創出を目指すクリエイティブカンパニー・ヘラルボニーの協力のもと、障がいのある作家のアートデザインで彩ったオリジナル背面ビブス（以下「本ビブス」）を制作し、ランナー向けに販売します。本ビブスは、ランナー本人の背中を押すだけでなく、売上の一部が作家へ還元されるほか障がいのある方を対象にした陸上教室運営のための寄付となることで、沿道から声援を受けたランナーが周囲や社会へ応援し返す（cheer back）ことにもつながります。

東京マラソン財団、東京建物、ヘラルボニーは、本アクションや併せて行うスポーツ×アートの取り組み・アートプロジェクトを通じて、障がいのあるなしに関わらず誰もが尊重し合い、表現することや体を動かすことを楽しめる、多様性にあふれた社会の実現を目指してまいります。

● 本アクションの概要

名称	東京 cheer back ビブス
企画・実施	一般財団法人東京マラソン財団、東京建物株式会社
協力	株式会社ヘラルボニー
販売期間	2026 年 8 月 1 日 9 時 00 分～2026 年 8 月 31 日 21 時 00 分
販売ビブス	ヘラルボニー契約作家のアートデザインを使用した背面ビブス ・ 作品名：20210425 ・ 作家名：時永 蒼生 ・ デザイン  「メッセージ有」  「メッセージ無」 ※「メッセージ有」・「メッセージ無」から選択できます ※「メッセージ無」はサインペン等での手書き記入が可能です
販売価格	880 円（税込） ※売上の一部が作家への還元および障がいのある方を対象にした陸上教室運営（東京マラソン財団スポーツレガシー事業 パラ陸上チャレンジサポート）のための寄付となります
引渡方法	本大会 EXPO 内の東京建物ブースにて引渡し ・ 期間：2026 年 10 月 16 日(金) 11 時 00 分～21 時 00 分(入場は 20 時 30 分まで) 2026 年 10 月 17 日(土) 10 時 00 分～20 時 00 分(入場は 19 時 30 分まで) ・ 会場：MUFG スタジアム(国立競技場)：東京都新宿区霞ヶ丘町 10-1
注意事項	・ お一人様 1 枚までのお申込みとなります。 ・ 制作可能枚数の上限に達し次第、受付を終了させていただきます。 ・ 決済が完了したお申込みに関してのキャンセル・返金は一切できません。 ・ 受取期間中に受取りができなかった方への後日対応はありません。
申込みサイト	https://tlh-cbb-office.peatix.com

● ビブスデザインについて

本ビブスのデザインには、時永 蒼生氏の作品「20210425」（以下「本アート」）を起用しています。本アートは、ヘラルボニーが主催する国際アートアワード「HERALBONY Art Prize 2026 Presented by 東京建物 | Brillia」にて「東京建物 | Brillia 賞」を受賞しています。

時永 蒼生氏は、7 歳の頃、絵画教室でキャンバスとアクリル絵の具に出会い、自宅で絵を描き始めました。直接手で混ぜた絵の具を撫で、拭き取り、指先で引っ掻くように描き進め、小さな身体で大きなキャンバスに向かい、何度も塗り重ねながら作品を完成させます。作品にみられる躍動的な物質感はその身体を使った動作によるもので、制作中は椅子や服にも描き始めるため、“創造的な副産物”が生まれ、家訓は「絵の具は汚

れではない」となっています。人の笑顔が何より好きで、悲しそうな人を見つけると笑顔で覗き込み、寄り添い、元気づけようとします。その温かな眼差しと優しさは作品の中に静かに滲んでいます。



《20210425》(2021)



時永 蒼生

● ビブスメッセージについて

本ビブスのメッセージである「Run in All Colors」には、ランナー一人ひとりの個性や、本アートが持つ多彩な表現を“Colors”に重ね、誰もが自分らしく走れる社会への願いを込めています。東京レガシーハーフマラソンが継承する、誰もがスポーツを楽しめる世界の実現という理念と、本ビブスを通じた応援・寄付の想いを象徴する言葉として採用しました。

● 東京マラソン財団、東京建物、ヘラルポニーによるこれまでの取り組みについて

東京建物は、本社を構える東京駅前の八重洲・日本橋・京橋（YNK）を重点エリアと位置付け、本年完成した TOFROM YAESU 等、複数の大規模再開発事業に参画するほか、地域のにぎわいを創出し回遊性を高めるまちづくりに取り組んでいます。このような東京建物の取り組みと、ランニング起点で暮らしとまちの環境を整えることで、よりよい社会の実現を目指す東京マラソン財団のミッションが合致し、2025 大会より、日本橋に設けられるコースの折返し点を、地名に因んで『“YNK” TURNING POINT（“インク”ターニングポイント）』と命名しています。また、本大会のコンセプトの一つである「インクルーシブな社会の実現」を体现するため、折返し점에設置されるタワーをヘラルポニーとのコラボレーションによるデザインで彩っています。本大会では本ビブス同様、時永 蒼生氏の作品「20210425」を採用します。本取り組みは、東京マラソン財団が実施するアートプロジェクトの一環としても展開されるものです。

本大会では、障害のある方々のスポーツ参加・大会参加のさらなる推進を目指しており、大会終了後には MUFG スタジアム（国立競技場）内でパラ陸上教室も予定しています。加えて、東京マラソン財団は、ウェルビーイングな社会の実現に向け、スポーツとアートの融合による取り組みを推進しており、大会の中で多くの方に鑑賞いただくことで、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の促進につながることを期待しています。



“YNK” TURNING POINT（2025 大会）

● 本大会の概要

大会名	東京レガシーハーフマラソン 2026
主催	一般財団法人東京マラソン財団
共催	東京都、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会
主管	公益財団法人東京陸上競技協会
運営協力	一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
後援	一般社団法人日本実業団陸上競技連合
開催日	2026 年 10 月 18 日（日） ※雨天決行
開催地	MUFG スタジアム（国立競技場）：東京都新宿区霞ヶ丘町 10-1 JR 総武線各駅停車「千駄ヶ谷」駅／「信濃町」駅：徒歩 5 分 都営大江戸線「国立競技場」駅（A2 出口）：徒歩 1 分
公式ウェブサイト	https://legacyhalf.tokyo/

● 東京マラソン財団について

東京マラソン財団は、「走る楽しさで未来を変えていく。」をミッションに、ランニングスポーツを通じて生活者の健康増進を支えるとともに、ランニングを起点に暮らしや街の環境をより豊かにすることで、よりよい社会の実現を目指しています。また、活動の一環として展開するアートプロジェクトでは、アートとスポーツが持つ可能性を探求。多様な人・モノ・コトを巻き込みながら、アート、クリエイション、テクノロジーなど、さまざまな分野のスペシャリストと連携し、新たな時代を見据えた共創に取り組んでいます。



● 東京建物について

東京建物は、1896 年（明治 29 年）創業の日本で最も歴史ある総合不動産会社で、本年 10 月に創業 130 年を迎えます。本大会にはメジャーパートナーとして協賛しており、2024 年より 3 回連続の協賛となります。2030 年を見据えた長期ビジョン「次世代デベロッパーへ」を掲げ、事業を通じて「社会課題の解決」と「企業としての成長」をより高い次元で両立することで、すべてのステークホルダーにとっての「いい会社」の実現を目指しています。

● ヘラルボニーについて

「異彩を、放て。」をミッションに、障害のイメージ変容と福祉を起点に新たな文化の創出を目指すクリエイティブカンパニー。障害のある作家が描く 2,000 点以上のアート作品を IP ライセンスとして管理し、正当なロイヤリティを支払うことで持続可能なビジネスモデルを構築。自社ブランド「HERALBONY」の運営をはじめ、企業との共創やクリエイティブを通じた企画・プロデュース、社員研修プログラムを提供するほか、国際アートアワード「HERALBONY Art Prize」の主催など、アートを軸に多角的な事業を展開しています。2024 年 7 月より海外初の子会社としてフランス・パリに「HERALBONY EUROPE」を設立。